

象徴責務へ決意

新天皇陛下「国民に寄り添う」



岩手日日新聞社

一関市南新町 60
郵便番号 021-8686

編集局 0191 (26) 4204

©岩手日日新聞社

電子号外

ご購入のお申し込みは お近くの「岩手日日」販売店、または

◆フリーダイヤル……………(0120)260945

岩手日日ホームページ・電子新聞 <https://www.iwanichi.co.jp>



「即位後朝見の儀」でお言葉を述べられる新天皇陛下
11日午前11時14分、皇居・宮殿「松の間」(代表撮影)

新天皇陛下が1日、皇位に就かれ、平成に続く令和の時代が始まった。新陛下は同日午前、皇居で国民の代表と会う儀式「即位後朝見の儀」に臨み、「常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓います」と最初のお言葉を述べた。

新陛下は1960年2月23日生まれの59歳で、お名前は徳仁。戦後生まれの初めての天皇となった。今回の皇位継承は、2017年6月に成立した「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」に基づく。宮内庁の記録によると126代目の天皇。

政府は即位儀式として、1日午前10時半から皇居・宮殿「松の間」で皇位の証とされる剣と勾玉、国の印である国璽、天皇の印である御璽を受け継ぐ「剣璽等承継の儀」を実施した。

続いて午前11時10分から即位後朝見の儀が行われ、政府、国会、裁判所の要人や地方代表ら約300人が参列。新陛下のお言葉に続き、首相が国民代表の辞を述べて祝意を表明した。